

Dr.ひろみの

ハッピー子育てひろば



☆プロフィール☆
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児科専門医

みなさん、寒さが本格的になってきましたね。

この間、ある中学生と知り合い、親しくなりたいと思ったので、彼女の「推し」についていろいろ勉強しないと！と娘に話すと、そんなに詳しくならなくていい。「推し」に対する熱いトークを聞いてあげれば十分のこと。確かに、難しい名前の漢字が読めなくて、読み方を教えてもらってフリガナをふっているだけでも嬉しそうに教えてくれたっけ。お子さんの「推し」についてご存じですか？子どもは「好き」を受け入れられるだけで、嬉しいんだと思います。

さあ、今回は

子どもの「ふつう」に打ちのめされるのが、子離れの第1歩です。

私たちは自分が経験したことや育った環境を「ふつう」だと思っています。例えば、両親がいる一軒家で兄弟と共に育ったのであれば、「家族」とは両親と子どもからなるという固定概念を持っており、子どものいる男女が再婚してできるステップファミリーは「ふつう」とは違うと感じます。逆に、物心がついたころから母子家庭であるなら、男の人がいる家庭は不自然で「ふつう」ではないと感じるわけです。このように、人間は体験したことを基に、固定観念をつくるものです。そのため、経験していないことは理解が難しく、「ふつう」ではないと否定したり、拒否したりします。

例えば、

勉強が得意な親

→ 不得意な子どもを理解すること

不登校の経験がない親

→ 不登校の子どもを理解すること

自己主張が得意な親

→ 引っ込み思案の子どもを理解すること



は難しい！

いじめられたことがない親が、いじめられた子どもに「いじめの原因が自分にもあるんじゃない？」「もっと強くなれ」「乗り越えろ」などと言うのは、思いやりとか共感性の不足もあるだろうけど、経験したことがない、または現在のいじめが昔とぜんぜん違うから分からないのです。

みなさんの「ふつう」は何でしょうか？

ゲームが趣味

同性が好き

オンラインで
友達をつくる

運動が嫌い

学校に行かない

二次元が好き

子ども

勉強をしない

自分の「ふつう」と違う子どもに戸惑うことはありませんか？今はなくても、将来戸惑うことがあるかもしれません。そんな時、どうしたらいいのでしょうか？

親がすべきこと

- ① まず、自分の「ふつう」と違うから気になり、腹が立っていることに気づきましょう。
- ② 自分の「ふつう」は何か、子どもの「ふつう」は何か、その違いについて考えてみましょう。
- ③ 子どもの「ふつう」についてじっくり話を聴き、「そうなんだね」と言ってみましょう。



親の「ふつう」ではないことを否定せず、受け入れることは非常に難しいことです。でも、とても重要なことです。「違い」を認め受け入れることは、子離れし、子どもの自立を促すことにつながります。自分と子どもとは違う人間なのだという当たり前の事実**に気づき、打ちのめされ、距離を置けるようになることが、子離れの第1歩**であり、思春期の洗礼ではないでしょうか。